

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

大阪府		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
大阪教育大学附属平野小学校	国立大学法人大阪教育大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
大阪教育大学附属平野小学校	https://osaka-kyoiku-hirasho.org/study/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL
大阪教育大学附属平野小学校	https://osaka-kyoiku-hirasho.org/list/feature02/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

各学年における未来そうぞう科の授業や発表において、保護者に参画を募り、子どもたちの未来そうぞう科の学習に関わり、その評価を受けている。

また、地域の方をゲストティーチャーとして本校に呼んだり、児童が訪問して話を聞く中で、子どもたちや教員から未来そうぞう科の取組内容や目的について説明したり、これまでの学習の成果を発表している。

さらに、例年2月に開催する教育研究発表会においては、教育関係者に向けて、本校の未来そうぞう科の研究成果について授業公開を行い、その成果を発信している。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校の学校教育目標「ひとりで考え、ひとと考え、最後までやりぬく子」のもとで、大切にしている「主体性」「協調性」「創造性」について、本特例により、その3つにおいて、態度のみではなく、「主体的実践力」「協働的実践力」「そうぞう的実践力」の3つの実践力の育成をめざしている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

未来そうぞう科においては、どんな状況においても、自ら考え、みんなで共に協力し、あきらめずに、よりよい未来を想像し、創造することのできる「未来をそうぞうする子ども」の育成をめざしている。また、どんな物事に対しても、新たな意味や価値を見出すことのできる「そうぞう的実践力」に重きをおいて取り組んでいる。実際に取り組んだ子どもの声として、「未来そうぞう科のSDGsの活動を通して、自分も社会の一員として何かできることがあるのではないかと感じた。」「一人ではできないことでも友だちとであれば、できることがあるとわかった。」「たとうまくいかないことがあっても、最後まであきらめず、色々なやり方を考えることで、あきらめない力がついた。」など、子どもたち自身が、未来そうぞう科の学習の中で、自らの体験を通して、人との協力の大切さや、自らの目標に向けて、自己調整を行いつつ粘り強く学びを創り続けていくことの重要性に気付くことができている。

今年度は、「そうぞう的実践力」を土台として、自分だけでなく自分を取り巻く社会に対して、働きかけていく力（エージェンシー）の育成にも取り組んでいる。各単元の終末に社会参画に関わる活動や社会への発信を目的とした活動を取り入れることで、子どもたちからも「自分たちが社会に何かしていくことができるという自信がついた」「子どもでも何かできることがあると思う」という感想があがっている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

昨年度、子どもたちが自分たちで探究的な学習活動を進めるためのカリキュラムを作成し、そこに子どもたちの姿から見取ったものを反映していくことで、子どもたちが自ら主体的に学び、その中でそうぞう的実践力を高めていけるカリキュラムの開発を行った。その中で、探究学習の捉え方が各教員で異なっていることで、カリキュラムに系統性が見いだせなかったり、「エージェンシーを発揮する子どもの姿」が共有できていなかったことで、子どもたちが自分たちで探究のサイクルを回す力がつけられたとは言い難く、また、エージェンシーについても「ただ発表をすればよい」という形式にとらわれ、本来のエージェンシーが持つ「責任を持って社会に関わり、変革しようとする力」が培われていないのではないかという課題が残った。

次年度は、カリキュラムの計画時に、横の系統性だけでなく縦の系統性をエージェンシーと探究学習の切り口で見ることができる部会を作り、できるだけ早い段階で全学年が「未来そうぞう科」の研究授業を行うことで、子どもたちの姿を基にして、カリキュラムを見直し、作り変え、「社会に開かれたカリキュラム」の中でより良い未来をそうぞうすることができる子どもたちの育成に関わる研究を進める。